

京急線沿線エリアマップ



CONTENTS

TOP MESSAGE 3
 未来を、どこまでも 5
 京急グループ総合経営計画について 7
京急グループTOPICS(中期経営計画 重点テーマ)
 ■ **エリア戦略** 品川を筆頭に駅周辺を核とする街づくりの推進 11
 羽田における基盤強化の推進 13
 都市近郊リゾート三浦の創生 16
 地域とともに歩む 18
 ■ **事業戦略** 基幹たる交通事業の基盤強化 20
 賃貸事業・マンション分譲事業の戦略的展開 21
 訪日外国人需要の取り込み 22
 筋肉質な事業構造への変革 23
 ■ **お客さま戦略** すべてはお客さまのために 23

京急グループの概要
交通事業
 鉄道事業 24
 乗合・貸切自動車事業(バス事業) 41
 タクシー事業 46
不動産事業
 不動産販売業 48
 不動産賃貸業 54
レジャー・サービス事業 58
流通事業
 流通事業の再編・統合 63
 百貨店・SC業 64
 ストア業 66
 京急プレミアムポイント 69
その他の事業 70

京急グループのCSR・その他
 社会的責任に対する取り組み 73
 危機管理 76
 京急グループにおける安全・安心なサービス 77
 環境 78
 住民や自治体との取り組み 80
 新規事業の創出 82
 インバウンドへの取り組み 83
 PR活動 85
 CS活動 86
 株主・投資家への取り組み I R活動 87

京急電鉄 会社概要 89
京急グループ 決算・会社概要
 京急グループ 決算概要 94
 京急グループ 会社概要 97

資料
 京急グループ年譜 112
 民鉄16社比較 123
 路線図／駅施設 125



TOP MESSAGE

京浜急行電鉄株式会社
取締役社長

原田 一之

平素より当社および京急グループの事業活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

京急電鉄は、2018年2月25日に創立120周年、2019年1月21日に開業120周年を迎え、この大きな節目の年に、京急グループ一丸となってさまざまな企画を展開してまいりました。その集大成として、品川・高輪地区や神奈川県内に分散していたグループ企業11社の本社機能と従業員約1,200人を「横浜・みなとみらい21地区」の「京急グループ本社」へ集約し、2019年9月17日から稼働を開始しました。

本社を移転した「横浜」は、当社の前身となる京浜電気鉄道と湘南電気鉄道と接続を果たした歴史的な場所です。また、京急線のほぼ中心に位置する司令塔として、今後大きく発展が期待される品川・羽田エリアの持つポテンシャルを沿線全域に波及し、横浜を中心に沿線の各エリアの活性化をリードしてまいります。

さらに、新本社には、湘南電気鉄道の創業当時から活躍していた車両を展示する「京急ミュージアム」を併設し、2020年1月のオープンに向け準備を進めております。120年にわたり、新しい価値を創造し沿線の発展に貢献してきた京急グループの「歴史を刻む場所」として、横浜駅東口から賑わいを創出してまいります。

中期経営計画の推進

2016年からスタートした「京急グループ第18次総合経営計画」では、最初の5年間を「構造変革期」と位置付け、長期ビジョン実現に向けた土台づくりを進める期間として「中期経営計画」を定めております。2020年度を最終年度とする「中期経営計画」は折り返しの地点を過ぎましたが、各事業が順調に進捗するとともに、事業の選択と集中を一段と進め、経営基盤の一層の強化を図ることができていると考えています。

2018年度は、前年度に取得した賃貸オフィス物件や「京急EXイン 羽田」が1年を通じて好調に稼働したほか、分譲マンションの販売および引き渡しが順調に推移しました。また、2019年8月「京急EXイン 羽田・穴守稲荷駅前」オープンにともない、「中期経営計画」で目標としていたビジネスホテル全館3,000室体制を前倒しで達成しました。

さらに、2019年4月からは、流通事業において「グループ全体最適」の発想のもと「1機能1社」を原則として、組織の再編および統合を実施し、経営の効率化を推進しております。

今後、オリンピック・パラリンピック以降の景気の後退懸念、沿線人口減少の本格化など、厳しい局面も予想されていますが、これらのリスクに対抗すべく、今後も環境の変化に適合した事業展開を行ってまいります。

エリア戦略 — 品川・羽田・三浦半島 —

東京・日本の玄関口「品川」、「羽田空港」の成長を担い、そのポテンシャルを最大限沿線の活性化につなげるべく、エリア戦略を掲げております。

■品川を筆頭に駅周辺を核とする街づくりの推進

品川駅周辺における開発の推進は、将来の京急グループの持続的成長を牽引する事業ととらえており、当社は品川駅のある「駅街区地区」とSHINAGAWA GOOSのある「西口地区」の2つの大きな開発に取り組んでおります。

「駅街区地区」においては、品川駅ホームの地平化(2面4線)および北品川駅付近の踏切解消を実現し、駅の利便性を生かした開発を目指します。また「西口地区」においては、地域が持つ歴史や豊かな緑を継承しつつ、オフィスやMICEなどの高機能化を図ることで、品格のある街を目指します。

■羽田における基盤強化の推進

2018年の訪日外国人旅客数は、過去最高の3,000万人を突破しました。羽田空港においては国際線の発着枠増加や一部ターミナルの国際線化に向けた準備など、ますますインバウンドの受け入れ態勢が進んでおります。当社においても、羽田空港国際線ターミナル駅と品川駅に京急ツーリストインフォメーションセンターを設置し、訪日外国人利用者へのご案内を強化しております。また、天空橋駅直近の羽田空港跡地第1ゾーンの開発事業に参画するなど、交通アクセスに留まることなく、不動産、ホテル、流通など各事業と連携を図りながら、羽田エリアのポテンシャルを沿線全域に波及させてまいります。

さらに、2019年10月からは加算運賃の引き下げを実施し、地域に密着する公共交通機関として、羽田空港アクセスにおける利便性の向上と確固たる地位の確立を図ります。

■都市近郊リゾート・三浦の創生

三浦半島は都心からわずか1時間圏内という近さにも関わらず、風光明媚な立地が最大の魅力です。マリレジャーを満喫できる海はもちろん、相模湾と東京湾、そして富士山も一望できる通称“三浦アルプス”と呼ばれる山の魅力を発信するため、2018年11月には「YAMAP」アプリを活用したイベントを開催しました。

また、同じく2018年11月には地元、行政とともに城ヶ島西部地区の再整備方針を決定いたしました。今後当社では、城ヶ島京急ホテルの建て替えを検討し、城ヶ島の再整備に参画してまいります。

ESG経営への対応

「ESG」とは、「Environment(環境)」、「Social(社会)」、「Governance(企業統治)」の3つの頭文字をとったもので、各分野への適切な対応が会社の長期的な成長と持続可能な社会の形成につながるといえます。当社グループでは、すべての事業において安全・安心の徹底を最大のテーマとするのももちろん、そのほかにも、CO₂排出が少ない電車・バスの利用促進を啓発する「ノルエコ」の提唱に努めております。また、2019年1月には神奈川県と「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結し、喫緊の課題となっている海洋プラスチックごみの削減を目指し、オリジナルエコバッグの配布を行ったほか、2019年4月からグループ全施設において生分解性ストローを導入するなど、国際的な動向にも注視しながら事業を進めております。

さて、さまざま申し上げてまいりましたが、今後も京急グループ一丸となって、より一層皆さまに愛され、ともに発展する企業となるべく努力を続けてまいります。引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

みらいを、どこまでも

京急電鉄は2018年に創立120周年を迎え、さまざまな記念イベント・施策を実施しました。そして、2019年秋には本社機能を横浜に移し、新たな一歩を歩み始めました。2020年3月には6駅の駅名を新たに、沿線地域の活性化を目指します。

京急グループ11社の本社機能が横浜・みなとみらい21地区に集結

横浜・みなとみらい21地区にグループ11社の本社機能が集まります

2019年9月2日に横浜・みなとみらい21地区に「京急グループ本社」が竣工しました。グループ企業11社・約1,200名を集約し、業務効率の向上を図るとともに、グループ内のさらなる連携を強化します。横浜エリアは京急電鉄の前身である京浜電気鉄道と湘南電気鉄道が結節した歴史ある地であり、京急線の中心に位置することから、「京急グループ本社」が沿線活性化の司令塔として「エリア戦略」をリードしてまいります。



■本社ビルに入居する11社

- 京急電鉄
- 京浜急行バス
- 京急不動産
- 京急イーエックスイン
- 京急アドエンタープライズ
- 京急ストア
- 京急リプロ
- 京急サービス
- 京急システム
- 京急ビルマネジメント
- 京急ビジネス



- 住所
神奈川県横浜市西区高島1-2-8
(横浜駅下車 徒歩7分)
- 規模
地上18階、地下1階、塔屋1階

社員のワークスタイル変革に注力しています

各階の共有エリアには、社員が自由に仕事場所を選べるよう、ミーティングテーブルや個人ブースを備えた「インタラクティブエリア」を設けました。また「パントリー」を併設し、グループ内の社員同士が集まることのできる空間を創出。最上階の「コミュニケーションエリア(カフェテリア)」ではヘルシーメニューを提供するなど、社員の健康増進を図るとともに、グループ社員全員の交流の拠点を目指しています。あわせてビル全体に無線LANを整備し、自分のデスクに縛られない働き方を実現します。



打ち合わせや休憩に使える
インタラクティブエリア



コミュニケーションの
きっかけを作るパントリー



最上階のカフェテリア



開業準備中の
「京急ミュージアム」

「京急ミュージアム」、認可保育園「京急キッズランド」を併設

1階には、創意や総合力を持って新しい価値を創造し、沿線の発展に貢献してきた京急グループの魅力を伝える「京急ミュージアム」が2020年1月に開業予定。館内には歴史的車両デハ230形デハ236号を展示するほか、鉄道の運転シミュレーターやバスの運転台、沿線ジオラマなどを設置し、本物を見て、触れて、楽しめる施設を目指します。また、認可保育園「京急キッズランド」も併設し、みなとみらい地区における子育ての支援施設として、2020年4月から地域のお子さまを受け入れます。

2020年3月、6駅の駅名変更を実施

沿線地域の活性化を目指し、4駅の駅名変更を決定

より多くのお客さまに「選ばれる路線」になるため、2020年3月、京急電鉄は大きな価値を持つ駅名の変更を創立120周年記念事業として行います。産業道路駅については、以前より地元行政などから「川崎市の飛躍につながるような、新しい駅名への変更をしたい」という要望をいただいていたこともあり、2020年3月に目指している駅舎完成を見据え、駅名変更を決断。そして、未来を担う子どもたちに自分の身近な駅の歴史に触れてほしいという趣旨のもと、沿線の小中学生を対象に「わがまち駅名募集」という企画を実施。駅名についての意見を広く伺い、それを参考に検討を重ね、さらに3駅の駅名変更の決定に至りました。

■現:産業道路



大師線連続立体交差事業における駅の地下化を機に、川崎市と大田区を結ぶ架け橋で、地元シンボルの一つでもある「大師橋」に変更。

■現:花月園前



かつては東洋一の遊園地として、その後は競輪場として賑わいを見せた「花月園」の「花月」を残しつつ、曹洞宗大本山として全国に知られ、駅から徒歩7分の「總持寺」を駅名に入れることで地域活性化につながる。

■現:仲木戸



「京急」を冠したうえで、東日本旅客鉄道(株)と同じ東神奈川駅とし、乗り換え可能な駅としての認知を高め、乗り間違いを防いで利便性を高める。

■現:新逗子



ブランド力のある地名にすることで、三浦半島のさらなるイメージ向上と定住人口、交流人口増により、地域活性化を図る。また、羽田空港からの直通電車に「逗子・葉山」と表示することで、より多くのお客さまに葉山へのアクセスポイントであることを広く周知。

さらに、10駅の副駅名標を導入

駅名変更を実施しない駅においても、お客さまから多くの駅名案をいただいたことから、その熱意を少しでも多く反映し、誘客促進などにつなげるため、現在販売されている副駅名称広告とは別に、副駅名標として採用することも同時に決定しました。2020年3月、大森海岸駅に「しながわ水族館」や日ノ出町駅に「野毛山動物園」など、10駅に副駅名標を表記します。

羽田空港国際線旅客ターミナルビルなどの名称変更にあわせた駅名変更も実施

2020年3月には羽田空港国際線旅客ターミナルビルなどの名称変更が行われます。これにあわせて、国からの要請により、京急電鉄でも羽田空港国際線ターミナル駅と羽田空港国内線ターミナル駅の駅名を変更します。この2駅をあわせた、全6駅の駅名変更を2020年3月に実施します。